第２回 栗東市観光振興戦略会議　会議概要

■日時：令和７年７月 31 日（木）　午後３時 00 分～午後５時 00 分
■場所：栗東市危機管理センター２階 防災研修室
■出席：《委員》
上田 雄三郎委員（会長)、田中 義信委員（副会長)、山本 高之委員、
清水 厚芳委員、杉田 健一委員、鶴田 泰伸委員、濱田 康之委員、高田 麻里委員
《オブザーバー・運営組織》
一般社団法人栗東市観光協会 山口 翔太郎事務局長
《委託事業者》
㈱しがぎん経済文化センター
《事務局》
環境経済部長、商工観光労政課長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：《委員》
奥村 和也委員

１．開会
（環境経済部長）

２．市民憲章唱和

３．あいさつ
（上田会長あいさつ　省略）

（事務局）
・本会議内容は原則公開。
・本日の傍聴者は０名。

４．報告事項
取り組み経過と今後のスケジュール（案）について（報告資料１、参考資料１～３）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】
とくになし

５．協議事項

①第二期栗東市観光戦略（案）について（協議資料１）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員　：正直、これ戦略なのかな、と疑問に思う。重点戦略４を読むと「検討を行います」という表現があるので、戦略を計る前の検討をしている印象だ。ここはもっと具体的な話、例えば天馬の森を利用して何かをしようということを、どこの関係機関と連携して令和何年度にやる、それに向けてこれするとかということが戦略だと思う。具体的な企画で、人や物、お金が生み出すものを作っていくという点がない。前回の会議で、アンケート結果から栗東芸術文化会館さきらに結構人が来ているが、実際は栗東芸術文化会館さきらで調査したからだという話もあった。そうだとしても、栗東芸術文化会館さきらは駅前立地で栗東駅から歩いていく人が多いとなると、もっと有効活用しようという考え方がこの重点戦略のどこかにあるかと思ったら、入っていない。

自然豊かな金勝にもっと来てもらう、馬を活かす、これも一つだが、もう一つ、駅前の文化的な要素も入れて、ダブルで盛り上げていくことが「栗東といえば」ということじゃないかなと思う。前回会議でも質問したが入ってないので、寂しい印象があった。

事務局：まず、重点戦略４について補足説明したい。戦略として我々が言いたい点は、計画の中にこうしたことを盛り込むことで、市街化調整区域で観光施設を開発しやすくなり一定の観光振興が図れるということだ。まずはこの戦略の中でしっかり位置づけて、その後、冒頭に説明した実行計画の中で具体的にどう進めていくのかについて皆さんと議論していきたいと考えているが、細かく踏み込みすぎると戦略自体がいつまでも作れないということになりかねないので、まずは戦略を作り、その戦略をもとに実行計画として議論を深めていきたい。そういった意味で、重点戦略２の中に「観光資源の磨き上げと市内外への積極的な情報発信」という部分があり、今のご意見で出た内容などはこの項目で掘り下げて議論を進めるべきではないかと思う。一方、関係機関や利害関係者との調整なども必要になるため、あまり具体的には書けないという悩ましい点もあるが、一旦戦略としては現状のような形でまとめていきたい。

委員　：市街化調整区域の件や、今後さらに練り上げていく中でより具体的・実効的にしていくという話はよくわかった。ただ、書くことに意味があると思うので、

何か記載できるものは書いていくほうがいいのではと思う。今具体的に何がというのは言えないが…。

事務局：栗東芸術文化会館さきらの件については芝生化してはどうかという意見が前回あったと思うが、そうしたところまで踏み込んで書ければいいがなかなか難しい。ただ、指摘の通り栗東芸術文化会館さきらをもっと有効活用すべきだということは書けると思うので、追記したいと思う。

事務局/部長：重点戦略の自然資源という点で金勝山に関してだが、私が環境経済部長と農林課長を兼務していることから、現在、施設のあり方や今後の展開について農林課と教育部生涯学習課で協議を重ねているところだ。
例えば、やまのこ事業で県内の小学４年生を対象に山の価値についての理解を深めてもらう活動をしている。コロナ禍前は１泊２日で実施していて、１本の木を子どもたちが倒すというような時間もあったので、感想文でもそれが一番メインになったり、歌を作る体験での歌詞の中にもこのことが出てきたりと、子どもたちにとってすごく印象に残る体験になっていた。山は生活の基本部分を支えてくれているのだという理解を深める内容にもなっていた。しかしコロナ禍で人との接触時間が取れないということで、４年前に私が課長職を務めていた際に日帰りプログラムを急きょ作ったが、それが本年度から平常化してしまっている。理由は教員不足で夜の宿泊のときに面倒を見られる人がいないというような学校の判断があったからだ。私がたまたま４年ぶりに戻ってきてその話を聞いて、もう一度元に戻せないか、例えば指導員の雇用形態を夜の宿泊が可能になるようなものに変えるなども含めて教育部と協議をしている。その中で、「やまのこ」事業の中心は農林課が担当し、施設自体は森の未来館で生涯学習課が担当、子どもたちを連れてくるのは教育部学校教育課を含めた各学校ということで、三者が関わっているが、生涯学習課の方から先般、やまのこ事業を全部自分たちで担当したいという意見をいただいた。彼らも宿泊可能なシステムを検討していて、さらに小学４年生の子どもたちだけではなく大人のやまのこ事業ができないだろうかというような話もある。大人ができるなら、夜の山の観察会みたいな星座や夜の動物、植物の観察会もできないだろうかと、もっと山の資源を生かすような取り組みはできないかというようなことを今水面下で議論している。まだ表に出せる状況ではないが、いろいろ検討してこの戦略の実行計画に反映できればと思っている。せっかくの機会なのでこの点を少し紹介させていただいた。

委員　：前回の第１回会議からからずっと気になっていることだが、ビジョンから戦略

に変わったという点について。戦略はビジョンがあってこそ戦略だと思う。どんなビジョンを元にこの戦略は決められているのか。第一期の観光振興ビジョンを作っていた人間からすると、第一期を元にこの戦略を焼き直ししているので、文章が整理されていないように思う。この点を明確にしないと、あやふやな表現ばかりが繋がっていくようで、やっぱりしっくりこないと感じる。

事務局：前回会議でも同様の回答をしたかもしれないが、第一期の観光振興ビジョンから第二期の観光振興戦略に変えたことについては、ご指摘のように焼き直しの個所は多分にある。一方で、総合計画の中で観光のビジョンは示されているので、我々の方向性としてはそれを具現化するための戦略を作ろうという形に変わってきた。そうした中で、四つの重点戦略を位置づけて、特に力を入れてやっていこうというのが市としての考え方だ。第一期の反省点として、計画はしっかり作ったが具体的にどこに力を入れていくのかはやや曖昧だったのではないかということがあり、第二期では重点戦略を作ったというのがまず一点ある。もう一点はこれからの部分になるが、進行管理をしっかりしないといけないということだ。進行管理については、第一期ビジョンの際には具体的に定めるのがいいのか悪いのかという議論があったと聞いている。そうした中で、第二期の戦略では、進行管理をしっかり行うための実行計画を作ろうということで、今事務局で考えているのは3カ年ローリングのような形だ。長期だと具現化しない計画になってしまうので、例えば令和８年～令和 10 年の３カ年かけて何をどのように進めていくのかを示すような実行計画作り、それを元にこの戦略の具現化を目指していきたいと考えている。

委員　：その考え方をこの戦略の１ページ目に書くべきではないか。今は第一期ビジョンを改訂して戦略に変えましたという一文しか書かれていない。戦略である以上はコロナうんぬんの前置きはいらないと思う。市の第６次総合計画ではこういうビジョンが述べられているので、そのビジョンに対して戦略としてこういうことを進めていくという流れにしないと、いまの事務局の説明を受けない限りわからない。その後も観光の特徴なども書いてあるが、これも本来はビジョンの中に書かれていることだと思う。そこでビジョンが成り立っていると思うので、それも整理をしないと今の戦略に書かないといけないことが余計あやふやになってしまう。前回、第６次総合計画は具体的にどういう内容なのかを尋ねた際に資料を出していただいたと思うが、そういうところが載っていないと市民の方にも伝わらないと思う。

事務局：今ご指摘いただいたことは１ページにしっかり反映させたい。

委員　：28 ページで目標管理ということで数値目標を立てている。戦略に基づいて事業を行った結果、うまくいったかどうかを可視化して判断する基準だと思うが、想定の観光入込客数や消費額の数値が野心的に思われる。この根拠や達成のプロセス、あるいはモデルにしているようなものがあれば教えていただきたい。滋賀県の観光入込客数は令和 5 年が約 5030 万人で、令和 6 年度もほぼ同じくらいだった。人口減少や物価高などで日本人による国内旅行は 1 カ所か 2 カ所ぐらいに絞るような状況になっているのではないかという、観光入込客数はあまり伸びないのではないかと思っているところがある。消費額は 2017 年の 8 億円から 2023 年には 29 億円と 20 億近く伸びたので、39 億 7,600 万という想定にしているかと思うが、前回会議で 20 億円増えた理由を聞いたときにルートインホテルができたからという回答だったので、一つのビジネスホテルができたぐらいで 20 億も増えだろうかと疑問に思っていて、この消費額もどうやって増やしていくのか。高単価のコンテンツを増やすか、もしくはリピーターを増やすかしないと、なかなか観光消費額も増えないのではないか。この数値にした理由をお教えいただきたい。

事務局：私もこの 4 月に異動してきたというのもあり…。昨年度策定した市全体の総合戦略において、この数値目標を既に提出しているので、上位計画が先にできあがったため、その数値に縛られているというのが正直なところだ。一定の割合で増加させたいという前任者の意向があり、この数値が設定されたと聞いている。また栗東市の場合、県内でもまだ観光があまり進んでいない部類に入ると考えた場合、逆に伸びしろがあると思うので、委員のご意見のように、どのような切り口から観光の数字を伸ばしていくのかについては、しっかり考えて行かないといけない。この点については後ほど協議事項 2 の議論で皆さまからご意見をいただきたい。

委員　：この数値が元々決まっていたものであるなら、この数値を目指して政策や戦略を打っていくとすると、非現実的なことがたくさん出てきて結果的にうまくいかないような気もする。もし可能であれば、がんばったら達成できそうな数値目標にして、今後想定される戦略や事業が現実性あるような形にしないと、目標がアバウトだとみんなで議論してもあまり意味がないのではないかという気がする。

事務局：やや苦しい言い訳になってしまうが、昨年度、市の総合戦略を策定してその中にすでに謳（うた）い込んでいる数値になっているため、この数値を触ること

は難しいというのが率直なところだ。一方で、その現実的な線というのをこの会議の中でしっかりと議論しながら、現実的な戦略や実行計画を立てていくということはご指摘の通りだと思う。非現実的な数字だという点にあまりにとらわれずに、現実的な線で議論できたらと考えている。

委員　：栗東市の観光入込客数は 19 市中 14 番目なので、まだまだ上を目指せる要素はあると思うし、観光消費額も前回大幅に増えているので、しっかりと取り組みをしていけば近づけるのではないかなと思う。がんばってお願いしたい。

会長　：プロの目から見ると、ちょっと目標が高すぎるのじゃないかというご心配について、すでに目標設定されているので今回はこれで行きたいというのが事務局としての今のお考えかと思う。28 ページでは「各数値は実施期間中の進捗状況を踏まえて見直しを行う可能性」があると書いてあるが、これはそういう意味か。

事務局：市の総合戦略ももしかしたら見直しもあるかもしれないため、そうした意味ではその時点で修正は可能かなと思う。

会長　：逆に戦略を途中で修正するのは大丈夫なのかというのもあるが、そういうことも含めて今進めているということかと思う。了解した。

委員　：観光関連課長会議にはどのような課が参加しているのか。

事務局：政策推進部からシティプロモーション推進課と企画政策課、環境経済部から環境政策課と農林課、我々商工観光労政課、都市整備部から健康運動公園整備事業推進課と都市計画課、住宅課、建設部から土木交通課、教育部から生涯学習課とスポーツ・文化振興課が参加している。今回委員の皆さんからご意見をいただき、会長からも学校教育との繋がりという部分があったので、個別に学校教育課とも少し協議を行い、先ほど話が出たやまのこ事業についても我々観光担当課としてやはり 1 泊にこだわりたいという点をお伝えした。そうした中で学校教育課にも入ってもらった。

委員　：戦略 1 ページの真ん中から下のあたりで「観光通じて地域経済を活性化させるとともに、地域への愛着や誇りを育む文化・社会的効果を高めることで、市民・事業者・関係団体・行政が一体となって地域の価値向上を推進することをめざす」と記載している。これはすごくすばらしいことだと思うし、また 15 ペ

ージ第４章の将来像で「経済的効果と、市への愛着や誇りを醸成する文化・社会的効果が発揮されるまち」その下の方の「基本理念」には「市民の中に『このまちに住み続けたい』『このまちと関わり続けたい』という思いを育むとともに」という文言もある。
まさにその通りだと思うが、会長が冒頭の挨拶で「観光のこれからはまちづくり」というようなことを言っておられた。市長は交流人口が少ないということを非常に問題視されているが、もう一つは流出人口で、出生率はすごく高いけどそのまま住み続けてもらえないということがある。それには住宅事情もあるかもしれないが、やはり子どもの時に山や文化などにいろいろなものに触れ合うこと、その記憶は絶対なくならないので、特に小学生にとっては非常に重要な部分だと思う。先ほどのやまのこ体験などは一生記憶に残るだろう。だから観光戦略はまちづくりであり、また、大きな課題である流出人口を減らすという意味でも非常に大きなウエイトを占めているのではないかと思う。
全国どのまちでもでもこれから人口が減っていく、この栗東市も数年したら人口が減っていくようになる中で、出生率は滋賀県で一番高いと思うので、このまちのの魅力をもっと子どもたち発信していくとともに、住宅環境を変えていくことがこの街の活性化に繋がると思う。それが商工業の発展などいろんなことに繋がってくるのではないか。市民にインフルエンサーになってもらえるようなまちづくりをしていく。そういう意味で、戦略は全体を通じてすばらしいことを書いてあるので、観光振興はまちづくりに繋がり、このまちがずっと成長していくためには非常に大事なことで、市民がインフルエンサーでもあり、このまちに住んでいてよかったと思えるようなシビックプライドを持てること、そういう部分をもっとクローズアップして、最初の文章を修正するならこの点も変えてほしいと思う。交通の便も良くなり、将来的にも発展する可能性があるまちだと思うので、観光がまちの未来を作るのだという意味で。学校教育課も含めて多くの関係課を加えたということなので、そういうものを目指すのだということを書いてもらえると本当の戦略になるのではないかと思う。

事務局：お二人の委員からいただいた意見を踏まえて、１ページはビジョンも含めてこの戦略の中に位置づけているということや、特にまちづくりをクローズアップしたり、進行管理の考え方であったり、そういった点をしっかり追記していきたい。

委員　：28ページの目標管理の話の続きになると思うが、15ページの「基本理念」を見ると、「経済的効果と社会的効果の両軸で推進していく」という内容が書いてある。経済効果は 28 ページの観光消費額などで表せると思うが、社会的効果が一

定の目標に達したことを表す指標や目標設定みたいなものを、市民アンケートでもいいと思うので、入れたほうがいいのではないか

事務局：例えば総合計画の中で定量的評価ということで、２年に一度、アンケートを実施して市民満足度の調査を継続している。そうした中で「このまちに住んでよかった」と思う市民の割合などはもしかしたら記載できるかもしれないので、ご指摘の目標の追記については可能な範囲で考えたい。

委員　：10 年ぐらい前にシティセールス委員会のような会議の委員を一度したことがあり、シビックプライドなど同じような言葉がたくさん出ていると感じている。今回の観光戦略は分析と方針かなという印象を受けるが、具体的にやっていく内容を決める委員会ではないという認識でいいのだろうか。

事務局：先ほどの別のご質問への回答と同じになるが、戦略として記載する部分と今後の実行計画の中で具体的にどのような取り組みを盛り込んでいくかという点も委員の皆さんと議論したいと考えている。その上で、今後の実行計画の中でより具体的なことは記載していきたい。前回会議で、例えば馬車を走らしてはどうかという議論があったと思う。こういうアイデアを戦略でどこまで書けるかというのはあるが、実行計画の中でこういうことを具体的に検討していく手順のようなものも含めて議論していけたらと思う。

委員　：実行計画で、実行する計画も含めて具体的な内容を決めていくということか。

事務局：基本的にはそうだ。一方で、私ども行政の仕事の進め方になってしまうが、やはり予算が取れて初めて確定するというところはある。皆さんのご意見を踏まえて予算の要求をして、その上で予算がつくかどうかということもあるし、予算の取り方についても依存財源、例えば国の費用を使うなどということも含めてご提案いただけると、より具体化しやすいということにもなるので、財源確保も含めて一緒に議論できたらと考えている。

委員　：市民記者「りっとうミツケーター」という事業を以前からやっていると思うが、これはものすごくシビックプライドを高めた結果、市民自らが発信してくれる企画だと思う。市民が発信する方も戦略にしっかり入れていくべきではないだろうか。もちろん市民への発信と両輪だと思うが、せっかく情報戦略うんぬんまで書いているのであれば、これまでやってきたことも盛り込んで、27 ページ（各主体⑥市民の部分）にシビックプライドを前提にした市の PR や魅力発信と

いうフレーズが急に出てきているので、重点政策なり重点戦略なり、基本事業にも含めていくほうがいいのでは。栗東市がこれまでやってきたことはもっと他にもあると思うが、それらがあまり織り込まれてないように感じた。

事務局：確かに書き込めてない部分もあろうかと思うが、我々の思いとしては、27 ページ⑥市民のところに記載のとおり、「『わがまち』への愛着と誇りを高め、自然な形で、自主的に市の PR や魅力発信を担う主体となることを目指す」ということで、市民の皆さんにこうしたことを強要することはできない部分もあるので、このような方向性で導いていけたらという思いだ。情報発信や SNS については重点戦略の中にも位置付けているので、今までどのような取り組みが良かったのか、さらに伸ばしていくべきなのかといった点も実行計画の中で議論・ご意見いただけたらと思う。この戦略の中に記載すべきかということは少し考えさせていただきたい。

委員　：今ふと、６番の市民は１番じゃないのかなと思った。市民が動き始めるとまちはおそらく大きく変わってくる。この戦略を見ていて、最初からずっと言っている「どこの市でも使える」というのをどこか脱却していくために、戦略的にも変えていく必要があるのでは。市民を巻き込んで観光していくのだというぐらいの意気込みとか、もちろんそこをサポートするのが、市や観光協会や各種事業者や団体であったりする場合も含めてすると、何かカラーの違うものが出てくるのではないかということを、この市民が６番目というのを見て感じた。

事務局：この案を作ったのは私だが、実際、やや遠慮がちに書いてしまったところがあるかもしれない。ご指摘の点も踏まえて、順番の入れ替えについては少し検討したい。

委員　：第一期ビジョンの際も、ビジョン策定の後に実行計画のようなものが作られたのか。

事務局：第一期ビジョンについては、進行管理そのものをやったほうがいいのか、逆に良くないのかという議論があったと聞いていて、進行管理がきちんとできてこなかったというのが実態としてある。

委員　：毎年（進行管理は）やっていたと思う。中間でもやっていたような気がする。オブザーバーとして観光協会の事務局長が会議に参加していたので、例えば、くりちゃんバスの利用者数や観光案内所のデータを報告してもらって、それに

対して委員として意見と評価をしたつもりだ。

事務局：こういう場で言うのはあまりふさわしくないかもしれないが、私が受けた引き継ぎは全く違う内容で、第一期ビジョンそのものに実行計画みたいなものを一部付け加えていて、それがあったほうがいいか、そもそも不要だというような議論もあったと聞いていた。そのような状況で、今回、第二期ではさらに戦略的に進めたいということから実行計画をしっかり作っていこうという流れになったと伝え聞いていたので、第一期の取り組みについて十分認識できておらず申し訳ない。いずれにしても、第二期については３カ年ローリングのような形でしっかりと実行計画を作ってやっていきたいと考えている。

委員　：実行計画の進捗管理ということもあると思うが、戦略を見ていると似たような内容がたくさん書いてあって、なおかつ具体的なことはそれほど書いてないように思う。実行計画は大事だと思うが、例えば「そのプランいいね」となったとしても、予算が取れなかったのでできませんでしたということもあるのか。何でもできそうだが何もできなさそうな気がする。

事務局：ご指摘のとおり、より具体的にやろうとすると小さな形になってしまうかもしれない。要するにやはり財源確保と併せて考えるというのが、戦略的に進めるためのヒントになると考えている。例えば、ふるさと納税を活用する、クラウドファンディング型でやってみるというような観点や、あるいは市民参加型でできるところから草の根的に始めるというような切り口もあるだろう。「まずハコモノを作ろう」みたいなことになると、なかなか予算がつかない、予算がつかないと進められない実行計画になってしまうので、いかに具現化できるような線で実行計画を作れるかという点は、技術的なところも含めて議論したい。

会長　：協議事項１についてご意見・ご質問いただいたが、戦略の内容としては、最初の部分の文言について少し検討するという方向で進めていくということだろうか。その内容については、私の方で一度拝見して、それで方向として進めていくということでいいだろうか。

委員　：意義なし。

会長　：ではそれで進めていきたい。私自身、第一期の経緯についてはあまり知らないが、やはり今回、栗東市としてより観光に力を入れる内容の仕組み、スキームを新たに作りながら皆さんと一緒にやっていきたいという意思表示だとお考え

いただいて、ぜひ前向きにプロの視点から建設な意見交換をお願いしたい。

②令和８年度　具体化する取り組み内容について（参考資料４・５）
○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員　：この DC（デスティネーション・キャンペーン）のことは全然知らなかった。近々、草津市と湖南市と協議をするということだが、協議の前提として基本何でもそうだと思うが「何をしましょうか」ではないと思う。栗東市がこの DC を使って観光をどのように戦略してくのかという「何か」を持って挑まなければ、結局「何かをしないといけない」になってしまう。その何か「これ」というものは、この会議の場でこれから決まるのか、あるいはもう決まっているのか、今何かアイデアが上がっているものがあるのだろうか。

事務局：今、市として考えているのは、まず東海道を活かしたいという思いだ。滋賀 DC は JR の取り組みなので、JR 駅をいかにうまく活用するかという視点が必要になるだろう。草津駅、手原駅、石部駅を連動させて先ほどの説明で、県の取り組みとして「歩く」というキーワードがあったが、実際に今たくさんの方が東海道を歩いている。栗東には残念ながら宿場がないものの、宿場と宿場を繋いでいる街道をうまく生かした観光コンテンツとして磨けないかいうことを考えているので、草津市や湖南市と一緒に何かツアーを組むなどできないかという思いを持って会議に臨みたい。そこに皆さん方からアイデアなどいただければありがたい。

委員　：草津市、湖南市との協議なので、その３駅なのはわかった。ただ、栗東駅もあるので…。実は今日、昼前に栗東駅に行って写真を撮ったが、ちょっと寂しい印象だった。栗東駅の周辺も変化できるところがたくさんあると感じたので、ここでの議論の一つになったらいいのではと思い、その素材として一応写真撮ってきた。例えば、階段を上がったところのポスターのスペースがガラガラだった。以前教室があった場所は自動販売機を置いているだけ。いかがわしい雑誌等はここに捨ててくださいというポストは西側も東側も置いてある。栗東駅はもう少し何かを発信する場所として使うべきだし、使わなきゃいけないのではないか。各課の連携で対応できるのでは。ポスターは土木交通課が管理していると書いてあった。キヨスクがあった場所も土木交通課の管理ではないか。

事務局：企画政策課の管轄だ。

委員　：では企画委政策課と繋がって、空いた場所を使って何かできないかという話ができると思う。もし担当課で案がないのであれば、市民の皆さんが作る側になって案を出し合って、発信する。今までの枠を超えた何かを市民と考える。そこを諦めずにやっていけたらいいのかなと思う。

委員　：地域おこし協力隊については、総務省の予算ありきなのでしょうけど、かなり普及している。初年度の隊員数は 89 人で、これはおそらくすごい枠の中から 89 人なので、いろんな知恵を持った方が来ていた。令和 5 年は 7200 人で、かつての数十倍の方が地域で活躍している。 7 ～ 8 年前のことだが、私の知り合いが北海道津別町の公募に申し込んだ時の要綱では、地域おこしに加えて年収 1000 万あげます、だった。選ばれた人はマッキンゼー出身の方で、私の知り合いはそのサブの役を年収 500 万で受けた。やはり奇想天外な発想が出てきた。もちろん予算組みはあると思うが、せっかくやるなら、何らかの形で上積みやいろんな工夫をして、私たちが想像つかない発想を持った人が地域おこし協力隊に入ってもらえるようにしないと、ありきたりの公募要項をしてもありきたりの方しか来ないのではないか。それでは何の地域活性にもならないのでは。
DC についても、正直「ありきたりだな」と思った。もちろんありきたりなことも大事だと思うが、そこに今度奇想天外なことも盛り込んでいかないといけないのではないか。戦略の中では、 4 市で構成する湖南地域観光振興協議会があると言っているにも関わらず、あれそっちに行ったのだと感じた。栗東には琵琶湖がない。守山には山がないけど、栗東には山があるとなったときに、今栗東の一番弱いところは「周遊」だと思うが、あるところ同士を結びつけてもそこだけ行けばいいで終わってしまう。そうではなく、ないものとあるものを組み合わせて補完し合うことでおもしろいことが起こるのじゃないかという発想を持たないと、DC も乗り遅れてしまう。もう来年の秋なので悠長なことは言っていられない。令和 9 年に向けてではなく、来年の秋に向けて何ができるのか。本当にスピード感を持って動いていただきたいと思う。

会長　：せっかくやるのだったら新しいことをどんどん取り入れてやってくださいというご意見かと思う。

委員　：地域おこし協力隊にしろ DC にしろ、滋賀県をキャンペーンする中で、栗東にしかないものは「馬のまち栗東」の馬の要素だと思うが、それがあまり出てこないように感じる。JRA のトレーニングセンターは日本に 2 カ所あって栗東と茨城県美浦村だが、この美浦村で今年 11 月までの 3 年間、守永真彩さんという方

が地域おこし協力隊をしていて、競馬ファンの間では結構知名度がある。タレント的な方だが、美浦村の地域おこし協力隊で PR 活動をしている。この方はそれだけの PR 力を持って参加して、美浦村の活性化にとても繋がっている。実際この方が入ったことで、トレセンの協力もぐっと得やすくなったそうだ。集大成として今年の 9 月だったか美浦村が主体となって大々的なイベントをやるとのことだ。栗東でも馬に関わる人の地域おこし協力隊というのも検討していただきたい。DC についても、栗東の強みである馬要素の活用方法はいろいろあると思う。まだ少し時間があるので、JR と協議をして、トレーニングセンターの中は当然難しいと思うが、下にある乗馬苑をもっと活用していくとか、そういった馬の活用も検討を進めていただきたい。

委員　：今のご意見、馬を出していこうというのは大賛成だ。現状ほとんど手付かずというか、手原駅の「馬のまち栗東」という看板は何年前に設置したのか。以降も馬と触れ合ったり見たりする機会が増えたような実感はない。例えば、先ほど話に出た東海道であれば、この戦略にも書いてあるが、スポットみたいな場所で馬車を走らせるとか、できるかどうかわからないが、それぐらい思い切ったことをしないとおそらく何の変化も起きないと思う。

委員　：地域おこし協力隊について。先月、近江八幡市の地域おこし協力隊の方の報告会に参加したところ、12〜13 人の方が報告発表した中に、すごく自分で考えてしっかり実行しているなという印象の方がいた。具体的には、沖島への移住を SNS で募集して案内して移住を促進したり、近江八幡では BIWAKO ビエンナーレをやっているが、それ以外でも芸術の街として根付くような取り組みをしたり、他にも自分でミニ FM 局みたいなものを作って、地域の人を巻き込んで地元の情報を積極的に発信したりなどだ。さきほどから市民を巻き込んでという話が出ているが、地域おこし協力隊の人が上手に地域住民を巻き込んで事業を進めていくので、それらがいろいろ重なり合ってくると、栗東市全体としてのうねりに繋がる要素もあるのではないかと思う。地域おこし協力隊の力を借りていろいろやっていくのはすごいことだなと思った。
DC は年 4 回、春夏秋冬やっていて、今は万博があるので大阪が DC の目的地としてキャンペーンしている。京都は毎年、冬の 1 月から 3 月にやっている。滋賀県は 20 数年ぶりに実施されるということで、各機関の役割が決まっている。JR の 6 社による共同キャンペーンなので、宣伝は JR がしてくれる。6 社の主要駅、札幌、東京、仙台、名古屋、大阪、京都、福岡の駅がポスターや動画で滋賀県一色になる。宣伝効果はやはり絶大だ。そして旅行会社が滋賀県に来る人を募集してくれる。専用のパンフレットや Web サイトを作って、商品造成をし

てお客さんを集めてくれる。地元がすることは、コンテンツ作りだ。来て見てもらう観光スポットや体験メニューなどを作らないといけないということで、役割が分かれている点が特徴だ。
滋賀県はやはり自然と歴史文化という特徴が全での市町にあるので、同じテイストでいくとおそらく栗東市は埋もれてしまうと思う。先ほど話にも出たように、馬は栗東市だけが使えるコンテンツなので、できれば民間が考えたアイデアを行政がしっかり調整をして、実現できるように汗をかく。そういう仕組み作り、役割分担が必要だと思う。滋賀県の中でも差別化を図らないと、DC で滋賀に来た人は有名な彦根城や延暦寺などに行ってしまうだろうが、一風変わったプログラムがあると目をひくと思うので、ぜひがんばって実現してもらいたい。
昔、京都競馬場は開催が終わったら、競馬場の中を人が走れた。私も一度 1 周したが、坂道がものすごく急だった。栗東のトレセンは坂道トレーニングで関西馬が強くなったので、実際にトレセンの坂道を走る体験プログラムを作るとか、障害はあると思うが、実現すべく汗をかかないと DC でも埋もれてしまうと思う。

委員　：昨日、県の観光審議会があり、多くの委員の方から京都のオーバーツーリズムで溢れているインバウンドを何とか取り込まないといけないというご意見をかなりいただいた。DC も兼ねてということになるが、今のご意見にあるように、差別化したコンテンツを点から線で結ぶような形で打ち出していくことが重要かなと思う。栗東市の中で線になるのであればいいが、難しければ周辺地域との協力や、テーマを揃えて協力できるところを探すということも必要だろう。
他には食の体験、食に興味を持つ外国の方もいるので、何かとセットにして打ち出すなど、おそらく私たちの普段の日常が県外の方や外国の方にとっては非日常になると思うので、それに気づくことが大事ではないか。

委員　：皆さんの意見を聞いていると、観光はやはり「チャレンジ」や「冒険」という言葉になるのだと思う。特に栗東の場合、新しいことに挑戦することがとても大事なのではないか。逆に「馬」は栗東にしかないので、そういうものの活用というのもあると思う。市としても予算をつけるのは大変難しいと思うが、チャレンジなくして未来は開けないと思うので、ぜひ皆さんのいい意見を参考にして、何とかこの戦略を戦術に変えて実際にやるということに結びつけていってほしい。観光協会としても当然、市と一緒になって実働部隊としてやっていきたいと思っている。

委員　：ホースパークを超えているので、この機会を利用して、ちゃんと実現可能のた

めにプレ・ホースパークではないが、VR や XR を使うなどいろんなことをして、そこはついでに市民が盛り上がってくると思う。この DC 使ってそこに集中すべき。この機運がちょっとずれると、市の観光に大きな影響を及ぼすのではないかということを、皆さんの意見を聞いていてふと思った。市としても、市長の一丁目一番地の政策なので、余計に PR のチャンス。本当にホースパークが開設した時にリピーターとして来てくれることに繋がるのではないかと思う。

委員　：さっきの話の続きだが、栗東市役所の 1 階の自販機が置いてある休憩スペースが寂しいと感じる。守山市役所は中にカフェができて、ごはんが食べられる。そこを目当てに来る人もいるので、私は栗東でも市役所を目当てに来るようなものを作りたいと思う。綺麗で広い市役所がいいのではなく、昭和レトロの市役所、昭和レトロの喫茶店をあそこやったらかっこいいなと個人的に思っていて、そういう何かができたらみんながそこに行くし、くつろぎたいって思うのではないか。何を目指したいのかとなったとき、栗東市は今あるものを大事に使って、人の繋がりでできることを楽しくやって見せていったらいいのじゃないか。
先ほどの栗東駅のこともあるが、お金がないからできないではなく、繋がってアイデアでできることいっぱいあるのにやってないことが多いのでは。市役所の休憩スペースもお金をかけずにできることがあると思っていて、例えば、栗東の東坂でヨイマメコーヒーさんがコーヒー焙煎をしているが、その方は京都の昭和レトロの喫茶店とかかわりがあって、滋賀で店舗を持ちたいとなった時に、栗東市役所の中に店舗ができましたとなったら、すごく素敵だなとか、例えばそれが先ほど言った栗東駅のキオスクの場所に一つありましたとか。今栗東に住んでいる方たちはいろんな繋がりがあってやっている方がたくさんいるので、何か小さなことでもいいのでアイデアや発想で繋がっていったらいいと思う。それが観光で大きくなるかどうかはわからないが、繋がっていった先に、最終的に大きいものに繋がっていくかもしれないと思っている。ちょっとアイデア、思いとしてお話した。

委員　：今の意見を聞いていて思ったことだが…。最近、美浦村に呼ばれることが多くてよく行くが、美浦村は入ったところにジョッキーの等身大パネルがあったりする。村なので栗東市よりもずっと小さい地域だが、さらにがんばって馬をアピールしようとしている。北海道の馬産地では、そこで生産された馬がもし G 1 などで勝ったら、役場の前にすごく大きな暖簾がかかったりする。
私も栗東で馬の活動を始めてもう 10 年以上になるが、ずっと「馬のまち栗東」というのがふわふわしている。誰が本当にそんなことを思っているのか。トレ

センの人たちも思っていないくらいのなので、やはり今はホースパークが一丁目一番地で向かわないといけないところなので、それが市長だけ、私のような事業者だけではなく、市民もそこに向かっていけるようなブランディングをしないといけないと思う。非常に時間かかることだと分かっているが、そこに向かっていくことが重要だと思うし、その中で栗東市役所の中に馬に関連するコンテンツがどれだけ置かれているかとか、そういう点も普段の意識づくりに関わってくるということだと思う。それほど予算をかけなくてもできることはたくさんあるのじゃないかなと感じた。

委員　：もう一つ、嵐だと思う。最後のコンサートなのでこのチャンスを逃したらもう二度とない。直接はできないが、統計には入ってないけれど大野神社の来客数はすごい人数のはずだが、それを栗東の観光に生かせていないのは事実。今からコンサートチケットの争奪戦が始まる中で、利用しない手はないと思う。DCの前段としても絶対出てくるはず。今、馬と嵐っていう存在を利用できるまちは、他にはないなとふと思った次第だ。

委員　：やはり馬に特化してやっていくべきという意見は変わらないが、リアルな馬じゃなくて、馬コンテンツに乗っかってもいいと思う。「ウマ娘」が人気を集めているので、そのコスプレをした人たちに手原駅から市役所まで走ってもらったらいいのでは。参加者が何かを賭けて、もちろんお金は賭けられないが、何か商品を用意するとか。それだけでも話題になるし、SNS で取り上げられると、栗東市の PR に繋がると思う。トレセンや競走馬、ジョッキーだけに固執するのではなく、馬に関連するようなものにうまくリンクしてコラボして盛り上げていくのも一つじゃないかと思う。

会長　：皆さんの意見を伺っていると、一つはやはり今までなかったような新しいことやチャレンジによって、今まで見たことがなかった景色を見たいということと、やっぱり DC のような時間があるものはスピード優先、スピード重視でやっていくということ、あとはやはり市民を巻き込む、市民と一緒になっていろいろ教育という面も含めてやっていくこと、こんなことを皆さん言っていたように思う。さまざまな意見を事務局に伝えながら、実際に観光を盛り上げるような施策を考えていければと考えているので、よろしくお願いします。それではこれで協議事項を終了したい。

6．その他

・ご意見シートの提出について

7．閉会

（環境経済部長によるあいさつ　省略）

以上